

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-097507

(43)Date of publication of application : 04.04.2000

(51)Int.Cl.

F25B 9/00

F25B 9/06

(21)Application number : 10-265379

(71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD

(22)Date of filing : 18.09.1998

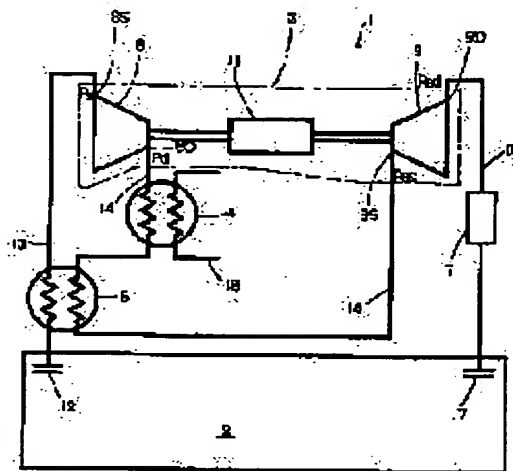
(72)Inventor : OSHIMA HIRONOBU
MATSUMORI HIROYUKI
ENDO TAKAYUKI

(54) AIR CYCLE TYPE COOLING DEVICE AND SCROLL FLUID MACHINE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the cooling effect of an air cycle type cooling device by using air as an operating medium and setting the ratio of the removal volume of a compression means to that of an inflation means in a specific range.

SOLUTION: Air piping 13 is connected to a suction port 12 that is formed in a space 2 to be cooled, is passed through the inside of a heat exchanger 6, and is connected to a suction port 8S of a compression means 8. Air piping 14 is connected to a discharge port 8D of the compression means 8, is passed through the inside of a heat exchanger 4, is passed through the inside of the heat exchanger 6, and is connected to a suction port 9S of an inflation means 9. Air piping 16 is connected to a discharge port 9D of the inflation means 9 and is connected to a discharge port 17 that is provided at the space 2 to be cooled via a dehumidifier 7. In this case, the ratio of the removal volume of the compression means 8 to that of the inflation means 9 is set to 1.5 or higher and 1.7 or lower.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.07.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3369977

[Date of registration] 15.11.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開 2000-97507

(P 2000-97507 A)

(43) 公開日 平成12年4月4日 (2000. 4. 4)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード (参考)
F 2 5 B	9/00	3 0 1	
	9/06		A
		9/06	J

審査請求 未請求 請求項の数 5

O L

(全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平10-265379

(22) 出願日 平成10年9月18日 (1998. 9. 18)

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 大嶋 汎信

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機株式会社内

(72) 発明者 松森 裕之

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機株式会社内

(72) 発明者 遠藤 崇之

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三洋電機株式会社内

(74) 代理人 100111383

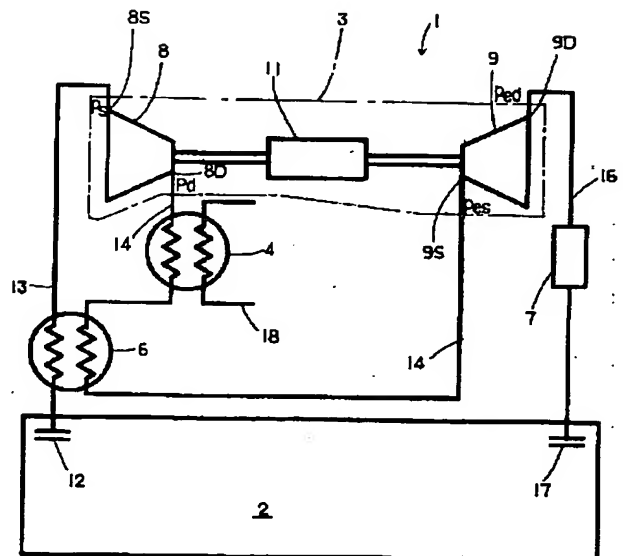
弁理士 芝野 正雅

(54) 【発明の名称】 空気サイクル式冷却装置及びスクロール流体機械

(57) 【要約】

【課題】 空気サイクル式冷却装置の冷却効果の向上を図る。

【解決手段】 空気サイクル式冷却装置 1 は、空気を作動媒体とし、圧縮要素 8 と、膨張要素 9 と、圧縮空気を冷却する冷却器 4、6 とを備えたものであって、圧縮要素 8 の排除容積 V_C と、膨張要素 9 の排除容積 V_E の比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下とした。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 空気を作動媒体とし、圧縮手段と、膨張手段と、圧縮空気を冷却する冷却器とを備えた空気サイクル式冷却装置において、

前記圧縮手段の排除容積 V_C と、前記膨張手段の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下としたことを特徴とする空気サイクル式冷却装置。

【請求項 2】 圧縮手段の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の圧力比 P_d/P_s を 1.6 以上 1.7 以下としたことを特徴とする請求項 1 の空気サイクル式冷却装置。

【請求項 3】 圧縮要素と膨張要素、及び、電動要素とを備え、前記圧縮要素及び膨張要素はそれぞれ、鏡板とこの鏡板に立設された渦巻き状のラップとを有してハウジングに固定された固定スクロールと、鏡板とこの鏡板に立設されて前記固定スクロールのラップと互いにかみ合う渦巻き状のラップとピン部とを有する揺動スクロールにより構成され、前記電動要素は回転軸を有し、この回転軸の両端に形成された駆動部は、それぞれ前記圧縮要素と膨張要素の揺動スクロールのピン部に挿入されると共に、前記圧縮要素の排除容積 V_C と、前記膨張要素の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E は 1.5 以上 1.7 以下とされていることを特徴とするスクロール流体機械。

【請求項 4】 前記圧縮要素と膨張要素を構成するスクロールのラップの高さにより、前記排除容積比 V_C/V_E を構成したことを特徴とする請求項 3 のスクロール流体機械。

【請求項 5】 圧縮要素の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の圧力比 P_d/P_s は 1.6 以上 1.7 以下とされていることを特徴とする請求項 3 又は請求項 4 のスクロール流体機械。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、空気を作動媒体として用いる空気サイクル式冷却装置及びそれに好適なスクロール流体機械に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来よりこの種空気サイクル式冷却装置は、例えば特開平 5-223376 号公報に空気サイクル式空気調和機として示されるように、圧縮機と膨張機及び冷却器などから構成され、被冷却空間から吸引した空気を前記圧縮機にて圧縮した後、冷却器にて冷却し、低温高圧となった空気を次ぎに膨張機にて膨張させて更に低温化し、被冷却空間に吹き出すことによって冷却作用を発揮させていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 係る構成によれば、従来のフロンなどの冷媒を用いた空気調和機の如く環境破壊の問題を解消することができるが、圧縮機において圧縮された空気が膨張機内部で膨張する際、圧縮機にお

る圧縮の体積効率と同様に、膨張機における膨張の体積効率が存在し、それを考慮せずに圧縮機と膨張機を組み合わせると、膨張機の吸入前圧力 (P_{es}) は圧縮機の吐出圧力 (P_d) と略同等となることから、膨張機側からの吸引作用によって圧縮機の吐出圧力が得られなくなる。

【0004】 また、圧縮機単体に着目すると、その吐出圧力と吸入圧力との圧力比を適正に選択しなければ、圧縮仕事を消費するあまりに、入力増をもたらし、入力に対する出力の比 COP (成績係数) が低下してしまう問題もあった。

【0005】 本発明は、係る従来の技術的課題を解決するために成されたものであり、空気サイクル式冷却装置の冷却効果の向上を図ると共に、それに好適なスクロール流体機械を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 即ち、請求項 1 の発明の空気サイクル式冷却装置は、空気を作動媒体とし、圧縮手段と、膨張手段と、圧縮空気を冷却する冷却器とを備えたものであって、圧縮手段の排除容積 V_C と、膨張手段の排除容積 V_E の比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下としたものである。

【0007】 請求項 1 の発明によれば、空気サイクル式冷却装置の圧縮手段の排除容積 V_C と、膨張手段の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下としたので、圧縮手段の吐出圧力を確保して、膨張手段において効率的な空気の断熱膨張を実現し、冷却効果の改善を図ることができるようになる。

【0008】 請求項 2 の発明の空気サイクル式冷却装置は、上記において圧縮手段の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の圧力比 P_d/P_s を 1.6 以上 1.7 以下としたものである。

【0009】 図 5 は圧縮手段の上記圧力比 P_d/P_s と COP の関係を示している。この図からも明らかな如く圧力比を大きくして行くと、 COP が急速に低下することが分かる。請求項 2 の発明によれば、圧縮手段の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の比 P_d/P_s を 1.6 以上 1.7 以下としたので、圧力を上昇させ過ぎずに COP を高く維持することができるものである。

【0010】 請求項 3 の発明のスクロール流体機械は、圧縮要素と膨張要素、及び、電動要素とを備え、圧縮要素及び膨張要素はそれぞれ、鏡板とこの鏡板に立設された渦巻き状のラップとを有してハウジングに固定された固定スクロールと、鏡板とこの鏡板に立設されて固定スクロールのラップと互いにかみ合う渦巻き状のラップとピン部とを有する揺動スクロールにより構成され、電動要素は回転軸を有し、この回転軸の両端に形成された駆動部は、それぞれ圧縮要素と膨張要素の揺動スクロールのピン部に挿入されると共に、圧縮要素の排除容積 V_C と、膨張要素の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E は

1. 5以上1. 7以下とされているものである。

【0011】請求項4の発明のスクロール流体機械は、上記において圧縮要素と膨張要素を構成するスクロールのラップの高さにより、排除容積比 VC/VE を構成したものである。

【0012】請求項5の発明のスクロール流体機械は、請求項3又は請求項4において圧縮要素の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の比 P_d/P_s を1. 6以上1. 7以下としたものである。

【0013】請求項3～請求項5の発明によれば、圧縮要素にて空気サイクル式冷却装置の圧縮手段を構成し、膨張要素にて同冷却装置の膨張手段を構成することにより、前記種々の作用効果を楽しむことができるようになり、請求項1及び請求項2の空気サイクル式冷却装置に極めて好適なスクロール流体機械となる。

【0014】特に、一台のスクロール流体機械が備える圧縮要素及び膨張要素にて圧縮手段と膨張手段を構成できるので、部品点数と構成の簡素化による生産性の向上とコストの低減を図ることができるようになる。また、空気の膨張を利用することにより、膨張要素にて電動要素の駆動力の回収を行うことができるようになり、著しい効率の改善を図ることが可能となる。

【0015】また、請求項4の発明によれば、圧縮要素と膨張要素を構成するスクロールのラップの高さにより排除容積比 VC/VE を構成するようにしたので、圧縮要素と膨張要素の他のパラメータを共通化することができるように、設計・製造に係る一層のコスト削減を図れるものである。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づき本発明の実施の形態を詳述する。図1は本発明を適用した空気サイクル式冷却装置1の構成図を示している。冷却装置1は、例えばプレハブ冷凍・冷蔵庫の庫内や低温槽の槽内（以下、被冷却空間2と称する）を冷却するものであり、本発明に係る無給油式のスクロール流体機械3と、冷却器としての空気-水熱交換器4と、空気-空気熱交換器6及び除湿器7などから構成されている。

【0017】前記スクロール流体機械3は圧縮要素（圧縮手段）8と、膨張要素（膨張手段）9及び電動要素11から構成されており、これらの詳細構造に関しては後述する。前記被冷却空間2内に形成された吸込口12にはエア配管13が接続され、このエア配管13は前記熱交換器6内を通過した後、前記圧縮要素8の吸入口8Sに接続されている。

【0018】また、圧縮要素8の吐出口8Dにはエア配管14が接続され、このエア配管14は熱交換器4内を通過した後、更に熱交換器6内を通過し、膨張要素9の吸入口9Sに接続されている。この膨張要素9の吐出口9Dにはエア配管16が接続され、除湿器7を介して被冷却空間2に設けられた吹出口17に接続されている。

【0019】係る冷却装置1においては、電動要素11により駆動される圧縮要素8によって吸込口12から被冷却空間2内の空気が吸引され、エア配管13を通過する過程で熱交換器6を経た後、圧縮要素8に吸入口8Sより吸入されて圧縮される。圧縮された高温高压の空気は吐出口8Dからエア配管14に入り、熱交換器4を経た後、熱交換器6を通過し、膨張要素9の吸入口9Sに吸入される。

【0020】前記熱交換器4には水配管18が設けられ、エア配管14内に吐出された高温高压の空気は熱交換器4を通過する過程で水配管18内を流れる冷却水と熱交換して冷却される。また、熱交換器6内を通過する過程でもエア配管13内を流れる吸入空気と熱交換して更に冷却される。

【0021】これによって、熱交換器6を出た空気は低温高压となった状態で膨張要素9に入る。膨張要素9内で低温高压の空気は膨張し、この圧力低下で膨張要素9の吐出口9Dからエア配管16に出た空気は更に低温となる。そして、除湿器7を経て除湿された後、吹出口17より被冷却空間2に吹き出される。以上のような直接空気を媒体とした圧縮-冷却-膨張のサイクルを繰り返すことにより、被冷却空間2内は冷凍温度まで冷却可能とされている。

【0022】次に、図2に示す断面図を用いて本発明のスクロール流体機械3の構造を説明する。スクロール流体機械3の前記圧縮要素8は、中央に軸受21を有する主ハウジング22と、この主ハウジング22にボルトにて固定された内側ハウジング23と、この内側ハウジング23内にボルトにて固定された第1の固定スクロール24と、前記内側ハウジング23にボルトにて固定された外側ハウジング26と、この外側ハウジング26内にボルトにて固定された第2の固定スクロール27と、両固定スクロール24及び27間に配設された揺動スクロール28とで構成されている。

【0023】前記主ハウジング22と内側ハウジング23間にはOリング29が介設されてシールされている。また、内側ハウジング23の側面には前記吸入口8Sが形成されると共に、外側ハウジング26の中央部には前記吐出口8Dが形成されている。

【0024】前記両固定スクロール24及び27は図3に示す如く円板状の鏡板31、32と、この鏡板31、32の一方の面に立設された二条の渦巻き状ラップ33、34、及び、36、37とで構成されている。そして、両固定スクロール24、27はラップ33、34とラップ36、37とが所定の間隔（後述する揺動スクロール28の鏡板38の厚さに略相当）を存して対向するように配置されている。尚、各ラップ33、34、36、37の先端にはチップシール48が取り付けられている。

【0025】一方、前記揺動スクロール28は円板状の

鏡板 38 と、この鏡板 38 の両面に立設された二条の渦巻き状ラップ 41、42、及び、43、44 と、鏡板 38 の一方の面の中央に突出されたピン部 46 と、外方に四カ所突出して形成された腕部 47・・・とで構成されている。尚、各ラップ 41、42、43、44 の先端部にもチップシール 48 が取り付けられている。

【0026】この揺動スクロール 28 はラップ 41、42 の突出方向を固定スクロール 24 方向とし、ラップ 43、44 の突出方向を固定スクロール 27 方向にしている。そして、固定スクロール 24 と揺動スクロール 28 とはラップ 33 及び 34 とラップ 41 及び 42 が相互に向かい合っ

てかみ合うようにして内部に複数の圧縮空間（圧力室）49 を形成し、固定スクロール 27 と揺動スクロール 28 とはラップ 36 及び 37 とラップ 43 及び 44 が相互に向かい合っ

てかみ合うようにして内部に複数の圧縮空間 49 を形成するようにしている。

【0027】主ハウジング 22 の内側ハウジング 23 と反対側の面にはボルトにてケース 51 の一端のフランジ 55 が Oリング 50 を介して取り付けられており、電動要素 11 はこのケース 51 内に収納されている。この電動要素 11 はケース 51 内に固定された固定子 52 と、この固定子 52 の内側に配置された回転子 53 と、この回転子 53 の中央に挿着された回転軸 54 とで構成されている。

【0028】軸受 21 には回転軸 54 の一端側の段部 56 に嵌合されるボールベアリング（アンギュラ玉軸受）57 が取り付けられている。このボールベアリング 57 の揺動スクロール 28 側には軸シール 58 が取り付けられている。この軸シール 58 はテフロンなどから構成された弾性部材で、環状を呈しており、回転軸 54 の周面に密着する。これによって、揺動スクロール 28 側とケース 51 側とは軸シール 58 を境に隔離されるかたちとなる。

【0029】61 は電動要素 11 の回転力を揺動スクロール 28 に伝える駆動部で、回転軸 54 の一端に形成されて、その軸心に対して偏心している。この駆動部 61 は、揺動スクロール 28 のピン部 46 内に挿入されて揺動スクロール 28 を公転させるものである。

【0030】駆動部 61 とピン部 46 間にはニードルベアリング 62 及びニードルベアリングシール 63 が取り付けられている。このニードルベアリング 62 にはグリスが封入されており、ニードルベアリングシール 63 はこのグリスの飛散を防止するものである。また、64 は回転軸 54 にネジ止めされたバランスウエイトであり、65 はターミナルである。

【0031】内側ハウジング 23 に形成された前記吸入口 8S は固定スクロール 24、27 及び揺動スクロール 28 の外側の圧縮空間 49 に連通している。また、外側ハウジング 26 に形成された前記吐出口 8D は中央の圧縮空間 49 に連通している。更に、66 は前記揺動スク

ロール 28 を前記固定スクロール 24、27 に対して自転しないように円軌道上を公転させる偏心シャフトである。

【0032】この場合、偏心シャフト 66 は外側ハウジング 26 に四カ所設けられており、一端は外側ハウジング 26 にボールベアリング 67 を介して固定され、他端は揺動スクロール 28 の各腕部 47・・・にボールベアリング 68 を介してそれぞれ固定されている。尚、69 は偏心シャフト 66 の取付部分を隠蔽するカバーである。

【0033】前記主ハウジング 22 内にはオイル通路 71 が形成されており、このオイル通路 71 の一端は主ハウジング 22 上面の供給孔 72 にて外部に連通し、他端はボールベアリング 57 に達している。そして、供給孔 72 から供給されたオイルはオイル通路 71 を経てボールベアリング 57 に供給され、潤滑した後、ケース 51 の主ハウジング 22 近傍の底面に形成された流出孔 73 から外部に排出される。このときに電動要素 11 などの各機器の発する熱も外部に持ち出される。尚、このオイルは軸シール 58 によって揺動スクロール 28 側への侵入を阻止される。

【0034】一方、スクロール流体機械 3 の前記膨張要素 9 は、中央に軸受 74 を有し、ケース 51 の他端のフランジ 75 に Oリング 76 を介してボルトにて固定された主ハウジング 77 と、この主ハウジング 77 にボルトにて固定された内側ハウジング 78 と、この内側ハウジング 78 内にボルトにて固定された第 1 の固定スクロール 79 と、前記内側ハウジング 78 にボルトにて固定された外側ハウジング 81 と、この外側ハウジング 81 内にボルトにて固定された第 2 の固定スクロール 82 と、両固定スクロール 79 及び 82 間に配設された揺動スクロール 83 とで構成されている。

【0035】前記主ハウジング 77 と内側ハウジング 78 間には Oリング 84 が介設されてシールされている。また、内側ハウジング 78 の側面には前記吐出口 9D が形成されると共に、外側ハウジング 81 の中央部には前記吸入口 9S が形成されている。

【0036】各固定スクロール 79、82 及び揺動スクロール 83 の構造は後に詳述する如くラップ寸法が縮小されているものの、前記圧縮要素 8 の固定スクロール 24、27 及び揺動スクロール 28 と基本的に同様である。即ち、前記両固定スクロール 79 及び 82 も図 3 に示す如く円板状の鏡板 86、87 と、この鏡板 86、87 の一方の面に立設された二条の渦巻き状ラップ 88、89、及び、91、92 とで構成されている。そして、両固定スクロール 79、82 はラップ 88、89 とラップ 91、92 とが所定の間隔（揺動スクロール 83 の鏡板 93 の厚さに略相当）を存して対向するように配置されている。尚、各ラップ 88、89、91、92 の先端にもチップシール 48 が取り付けられている。

【0037】一方、前記揺動スクロール83も図3に示すように円板状の鏡板93と、この鏡板93の両面に立設された二条の渦巻き状ラップ94、96、及び、97、98と、鏡板93の一方の面の中央に突出されたピン部99と、外方に四カ所突出して形成された腕部101・・・とで構成されている。尚、各ラップ94、96、97、98の先端部にもチップシール48が取り付けられている。

【0038】この揺動スクロール83はラップ94、96の突出方向を固定スクロール79方向とし、ラップ97、98の突出方向を固定スクロール82方向にしている。そして、固定スクロール79と揺動スクロール83とはラップ88及び89とラップ94及び96が相互に向かい合っ

てかみ合うようにして内部に複数の膨張空間(圧力室)102を形成し、固定スクロール82と揺動スクロール83とはラップ91及び92とラップ97及び98が相互に向かい合っ

てかみ合うようにして内部に複数の膨張空間102を形成するようにしている。

【0039】軸受74には回転軸54の他端側に嵌合されるボールベアリング(アンギュラ玉軸受)104が取り付けられている。このボールベアリング104の揺動スクロール83側には軸シール106が取り付けられている。この軸シール106はテフロンなどから構成された弾性部材で、環状を呈しており、回転軸54の周面に密着する。これによって、揺動スクロール83側とケース51側とは軸シール106を境に隔絶されるかたちとなる。

【0040】107は電動要素11と揺動スクロール83とを連結する駆動部で、回転軸54の他端に形成されて、その軸心に対して駆動部61と同位相で偏心している。この駆動部107は、揺動スクロール83のピン部99内に挿入されて揺動スクロール83を公転力を回転軸54に伝達し、或いは、回転軸54の回転を揺動スクロール83に伝達するものである。

【0041】駆動部107とピン部99間にはニードルベアリング111及びニードルベアリングシール112が取り付けられている。このニードルベアリング111にはグリスが封入されており、ニードルベアリングシール112はこのグリスの飛散を防止するものである。また、113は回転軸54にネジ止めされたバランスウェイトである。

【0042】内側ハウジング78に形成された前記吐出口9Dは固定スクロール79、82及び揺動スクロール83の外側の膨張空間102に連通している。また、外側ハウジング81に形成された前記吸入口9Sは中央の膨張空間102に連通している。更に、114は前記揺動スクロール83を前記固定スクロール79、82に対して自転しないように円軌道上を公転させる偏心シャフトである。

【0043】この場合、偏心シャフト114は外側ハウ

ジング81に四カ所設けられており、一端は外側ハウジング81にボールベアリング116を介して固定され、他端は揺動スクロール83の各腕部101・・・にボールベアリング117を介してそれぞれ固定されている。尚、118は偏心シャフト114の取付部分を隠蔽するカバーである。

【0044】前記主ハウジング77内にはオイル通路119が形成されており、このオイル通路119の一端は主ハウジング77上面の供給孔121にて外部に連通し、他端はボールベアリング104に達している。そして、供給孔121から供給されたオイルはオイル通路119を経てボールベアリング104に供給され、潤滑した後、ケース51の主ハウジング77近傍の底面に形成された流出孔122から外部に排出される。このときに電動要素11などの各機器の発する熱も外部に持ち出される。尚、このオイルは軸シール106によって揺動スクロール83側への侵入を阻止される。

【0045】また、主ハウジング77の内側ハウジング78側の面には真空断熱パネル123が埋設され、内側ハウジング78に面接触している。この真空断熱パネル123は所定の容器内に断熱材を封入して真空引きしたものであるが、この真空断熱バルブ123部分の主ハウジング77の凹所を真空引きして真空室としたものでも良いものである。

【0046】ここで、前記圧縮要素8の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の圧力比 P_d/P_s は1.6以上1.7以下に設定されている。また、前記圧縮要素8の排除容積 V_C と、膨張要素9の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E は1.5以上1.7以下に設定されている。

【0047】そして、係る排除容積比 V_C/V_E を構成するに際して、図4に示す如く圧縮要素8の各ラップ33、34、36、37、41、42、43及び44の高さを H とした場合、スクロールの巻数・基礎円半径などのパラメータはそのまま、膨張要素9の各ラップ88、89、91、92、94、96、97及び98の高さ h を、 $h < H$ とする。

【0048】これにより、圧縮要素8と膨張要素9の他のパラメータを共通化することができるようになり、スクロールの設計・製造に係るコスト削減を図れるようになる。

【0049】このように構成されたスクロール流体機械3において、電動要素11を回転させると、その回転力が回転軸54を介して圧縮要素8の揺動スクロール28に伝えられる。すなわち、揺動スクロール28はこのスクロールのピン部46に挿入された回転軸54の駆動部61で駆動され、偏心シャフト66によって固定スクロール24、27に対して自転しないように円軌道上を公転させられる。

【0050】そして、固定スクロール24及び27と揺動スクロール28とはこれらのスクロールで形成された

両面の圧縮空間 49、49 を外方から内方へ向かって次第に縮小させ、吸入口 8S から流入した空気を圧縮する。この圧縮された空気は外側ハウジング 26 の吐出口 8D から吐出される。

【0051】このとき、揺動スクロール 28 の両面に圧縮空間 49、49 が形成されることにより、揺動スクロール 28 には両面からスラスト力が加わることになる。これにより、片面にのみラップが形成されたものに比較して、揺動スクロール 28 に加わるスラスト力は殆ど相殺され、ピン部 46 に加わる力のみに抑えられることになる。従って、揺動スクロール 28 の転覆モーメントは極力低減され、スラスト軸受や背圧室なども廃止することができるようになる。

【0052】また、固定スクロール 24、27 及び揺動スクロール 28 には二条のラップ 33、34、36、37、41、42、43、44 が形成されているので、空気の吸入位置は 4カ所（一条の場合には一カ所）となり、一回転において従来一回の吸気行程であったものが、90度毎に吸気を行うようになる。更に、一条の場合に比して揺動スクロール 28 の揺動半径を縮小することが可能となる。これにより、揺動スクロール 28 を含む重量物の偏心量を小さく抑え、遠心力を抑制しながら、取り扱い空気流量を増加させることができるようになり、バランスウエイト 64、113 などの小型化と、トルク変動の小さい滑らかな運転を実現することができるようになる。

【0053】また、軸シール 58 によって圧縮空間 49 へのオイルなどの侵入が阻止されることにより、圧力流体（空気）の清浄度が保持されるようになり、圧力流体の異物除去などの必要が無くなって、流体を直接利用することが可能となる。

【0054】特に、前記圧力比 P_d/P_s と圧縮要素 8 の COP（成績係数）の関係は前述の図 5 となるが、前述の如く本発明では圧力比 P_d/P_s を 1.6 以上 1.7 以下に設定しているの、この図からも明らかな如く圧力を上昇させ過ぎずに COP を高く維持することができるようになる。

【0055】このようにして圧縮要素 8 から吐出された高温・高圧の空気は、前述の如く熱交換器 4 及び 6 で冷却された後、低温・高圧となって膨張要素 9 の吸入口 9S に至る。このとき、膨張要素 9 の吸入圧力を P_{es} 、吐出圧力を P_{ed} とすると、 P_{es} は略 P_d となる。また、電動要素 11 の回転力は回転軸 54 を介して膨張要素 9 の揺動スクロール 83 に伝えられており、揺動スクロール 83 はこのスクロールのピン部 111 に挿入された回転軸 54 の駆動部 107 で駆動され、偏心シャフト 114 によって固定スクロール 79、82 に対して自転しないように円軌道上を公転させられている。

【0056】そして、固定スクロール 79 及び 82 と揺動スクロール 83 とはこれらのスクロールで形成された

両面の膨張空間 102、102 を内方から外方へ向かって次第に拡張させ、吸入口 9S から流入した空気を膨張させる。この膨張した温度低下した空気は内側ハウジング 78 の吐出口 9D から吐出される。

【0057】このとき、揺動スクロール 83 も両面に膨張空間 102、102 が形成されることにより、前述と同様にスラスト力が相殺されるようになる。また、固定スクロール 79、82 及び揺動スクロール 83 にも二条のラップ 88、89、91、92、94、96、97、98 が形成されているので、前述同様に揺動スクロール 83 の揺動半径が縮小されることになる。また、軸シール 106 によって膨張空間 102 へのオイルなどの侵入も同様に阻止される。

【0058】また、膨張空間 102、102 内における圧力流体（空気）の膨張により発生する力は、回転軸 54 に伝達されて電動要素 11 の回転を補填することになる。即ち、空気の膨張を利用することにより、膨張要素 9 にて電動要素 11 の駆動力の回収を行うことができるようになり、効率が改善される。

【0059】更に、主ハウジング 77 には内側ハウジング 78 と接触する面に真空断熱パネル 123 が取り付けられているので、両者間の熱伝達は僅かに残った面接触部分からのみとなる。これにより、電動要素 11 側から膨張要素 9 に伝達される熱を最小限とし、膨張要素 9 における低温発生に与える悪影響を最小限に抑制して低温発生効率を更に向上させることができるようになる。

【0060】特に、前述の如く圧縮要素 8 の排除容積 V_C と、膨張要素 9 の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下に設定しているの、圧縮要素 8 の吐出圧力 P_d を確保して、膨張要素 9 において効率的な空気の断熱膨張を実現できるようになる。

【0061】尚、膨張要素 9 から吐出された低温空気は前述の如く被冷却空間 2 に供給されて冷却作用を発揮するものである。

【0062】

【発明の効果】以上詳述した如く請求項 1 の発明によれば、空気サイクル式冷却装置の圧縮手段の排除容積 V_C と、膨張手段の排除容積 V_E の排除容積比 V_C/V_E を 1.5 以上 1.7 以下としたので、圧縮手段の吐出圧力を確保して、膨張手段において効率的な空気の断熱膨張を実現し、冷却効果の改善を図ることができるようになる。

【0063】また、請求項 2 の発明によれば、圧縮手段の吐出圧力 P_d と吸入圧力 P_s の比 P_d/P_s を 1.6 以上 1.7 以下としたので、圧力を上昇させ過ぎずに COP を高く維持することができるものである。

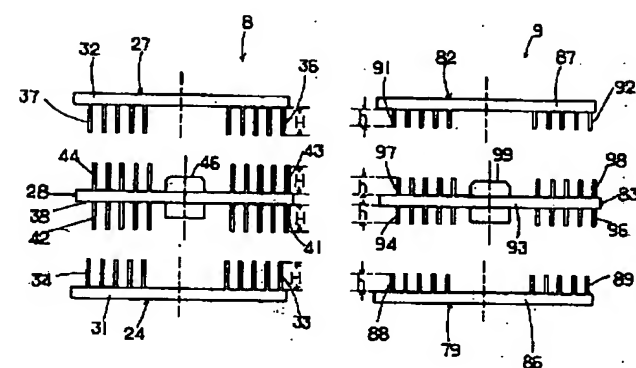
【0064】更に、請求項 3～請求項 5 の発明によれば、圧縮要素にて空気サイクル式冷却装置の圧縮手段を構成し、膨張要素にて同冷却装置の膨張手段を構成することにより、前記種々の作用効果を楽しむことができ

【0065】特に、一台のスクロール流体機械が備える圧縮要素及び膨張要素にて圧縮手段と膨張手段を構成できるので、部品点数と構成の簡素化による生産性の向上とコストの低減を図ることができるようになる。また、空気の膨張を利用することにより、膨張要素にて電動要素の駆動力の回収を行うことができるようになり、著しい効率の改善を図ることが可能となる。

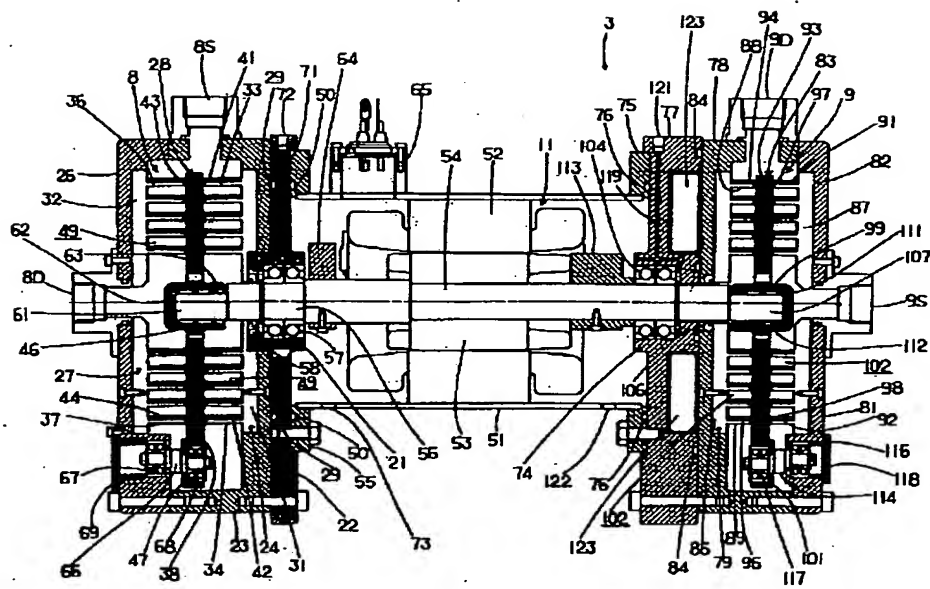
10

【図3】図2のスクロール流体機械の圧縮要素及び膨張要素を構成する固定スクロール及び揺動スクロールの分解斜視図である。

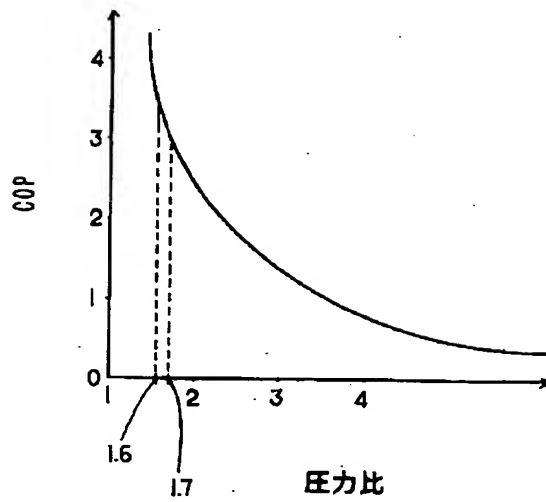
【图4】



【図 2】



【図 5】



【図 3】

